

船舶事故調査報告書

令和2年3月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年11月10日 16時00分ごろ
発生場所	香川県さぬき市白方漁港北方沖 大串埼沖灯標から真方位282° 1,400m付近 (概位 北緯34° 22.4′ 東経134° 11.8′)
事故の概要	プレジャーボート中村丸は、漂泊中、のり養殖施設の固定索に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年12月4日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 中村丸、1.98トン KA3-24019（漁船登録番号）、個人所有 第280-38991号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	本船 船尾部船底外板に擦過傷 のり養殖施設 なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期、潮流 微弱な東流
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人3人を乗せ、のり養殖施設（浮流し方式、以下「本件養殖施設」という。）の西方沖において、機関を止めた状態で漂泊し、釣りを行っていた。</p> <p>船長は、釣りを終えて知人3人と共に釣り道具を収納し始めた際、本船が風潮流の影響により僅かに東方に向けて移動していることに気付いたが、本件養殖施設から約50m離れていたもので、釣り道具を収納し終えるまで漂泊を続けても問題ないと思った。</p> <p>本船は、船長が、釣り道具を収納しながらふと周囲を見たところ、右舷船尾方至近となった本件養殖施設の固定索を認め、同索が右舷船尾部の船底下に入り込んで乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約1.2mであった。</p>
分析	本船は、漂泊中、本件養殖施設に向けて圧流されている状況下、船長が、東方の本件養殖施設まで約50m離れていれば問題ないと思い、釣り道具の片付けを続けたことから、本件養殖施設に接近していることに気付かず、船底下に本件養殖施設の固定索が入り込んで乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、漂泊中、本件養殖施設に向けて圧流されている状況下、船長が、東方の本件養殖施設まで約50m離れていれば問題

	<p>ないと思い、釣り道具の片付けを続けたため、本件養殖施設に接近していることに気付かず、船底下に本件養殖施設の固定索が入り込んで乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型船舶の船長は、漂泊中に風潮流等の影響を受けて移動しやすいことを考慮し、周囲の適切な見張りを行うとともに、養殖施設などから十分に離れた場所で漂泊すること。